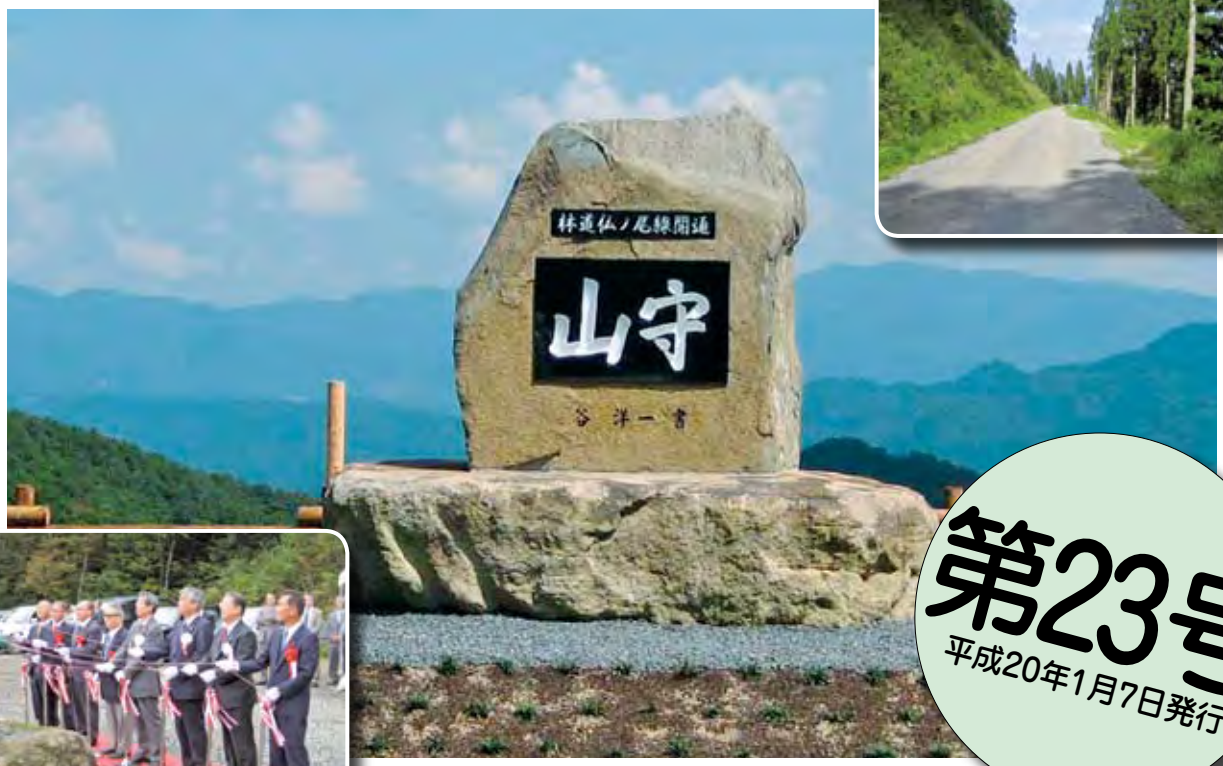
兵庫の治山・林道と森林整備

やまなみ

題字 谷　洋一 会長



林道「仏ノ尾線」開通式・記念碑除幕式

第23号
平成20年1月7日発行

- 平成20年　知事新春メッセージ「元気で安全・安心な兵庫をめざして」(兵庫県知事 井戸敏三)……2
- 年頭挨拶「新春を迎えて」(㈳兵庫県治山林道協会 会長 谷洋一)……3
- 平成19年度 秋の叙勲受章・兵庫県林業賞受賞の皆様(兵庫県農林水産部農林水産局林務課)……4
- 治山・林道コンクール受賞者の紹介……5
- 特定非営利活動法人「ひょうご森の倶楽部」の紹介
  ～全国育樹活動コンクールで「農林水産大臣賞」を受賞～(特定非営利活動法人 ひょうご森の倶楽部 会長 福田正)　6・7
- 林道「仏ノ尾線」が全線開通(兵庫県但馬高原林道建設事務所)……8・9
- 紅葉の瀞川・氷ノ山林道で自然観察ウォーキングを実施……10～12
- 京都・兵庫合同治山事業現地検討会を開催(兵庫県農林水産部農林水産局治山課)……13
- 兵庫県マスコット「はばタン」も森づくりを体験！
  ひょうご森の日(全県イベント)(兵庫県農林水産部農林水産局豊かな森づくり課)……14
- 平成19年度兵庫県緑の少年団活動発表大会の開催(兵庫県緑の少年団連盟)……15
- 「壊れない道づくり講習会」の開催について
  (兵庫県立農林水産技術総合センター森林林業技術センター 春名貞夫)……16・17
- 冊子「ひょうごの森林・林業」の発刊……17
- 「県民緑税」を活用した里山防災林整備の紹介
  人家裏や生活道路沿いの高木伐採について(兵庫農林水産部農林水産局治山課)……18
- 森林・林業関係国予算内示の概要(平成20年度予算)……19・20
- 協会だより……20

平成20年　知事新春メッセージ

元気で安全・安心な兵庫をめざして

兵庫県知事　井戸敏三

新年あけましておめでとうございます。

平成二十年の節目の年が開けました。この二十年間、わが国は、豊かさとは何かを問い続け、成長から成熟への構造転換を模索してきたと言えるでしょう。

その歩みの中、兵庫は、大震災からの創造的復興をめざし、懸命に努力してきました。

コミュニティ重視の地域活動や共助で築く安全安心の地域づくり。

成長産業やものづくり産業が牽引する兵庫産業の再生。

自然の偉大さを学び共生をめざす環境優先の社会づくり。

地域個性や資源が光る交流の高まり。

いずれも成熟社会の針路を示すものです。

これからは、復興の過程で芽生えたこれらの取組みを礎として、新しい兵庫づくり、兵庫の再生に向けてスタートを切ります。

そのためにも、復旧復興を担ってきた財政状況を改革し、持続可能な構造にしていきます。

成熟社会の主役は、県民の皆さんです。一人ひとりの主体的な活動が、新しい兵庫をつくります。

今春、日本最大のお菓子の祭典「姫路菓子博２００８」が開かれます。環境大臣会合も開催され、国内外から多くの人々が訪れます。今こそ、兵庫らしさに磨きをかけ、内外に発信するときです。

参画と協働を基本姿勢に、人、産業、地域、社会の元気づくり、県民生活の質の向上、交流人口の拡大、家庭と地域の再構築の四つの視点で、「元気で安全・安心な兵庫」をめざしましょう。

こうのとり　翔る大空　夢のせて

再生兵庫へ　ともに歩まん

年頭挨拶

新春を迎えて

㈳兵庫県林業会議
兵庫県森林組合連合会
㈳兵庫県治山林道協会
会長 谷洋一

新年明けまして おめでとうございます。

皆様には、お健やかに、新しい年を迎えられましたことをお喜び申し上げます。

平素は、当会の運営につきまして、格別のご支援、ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、昨年は、台風等大きな自然災害もなく、ひと安心の年でございましたが、近年、局地的な集中豪雨が頻発する傾向が強まってきております。平成16年の台風被害の教訓を踏まえ、治山施設が適正に設置されることを望むとともに、災害に強い森づくりを強力に推進していかなければならないと心新たにしております。

幸い、京都議定書目標達成に向けて、森林吸収源対策を加速させるための森林整備事業の拡大や県独自の県民緑税による森づくりなどが展開されております。これらの施策を大いに活用して、安全で豊かな森づくりを進めようではありませんか。

一方、中国等における木材需要の増加、原油価格の高騰、ユーロ高など諸外国の外材供給事情や国内の木材加工技術の向上等により、従来は外材一辺倒であった合板や集成材等への国産材利用が増えてきています。他方、本県の森林は、建築用材として十分使える資源になってきております。

このような中、昨年、平成22年度の稼働を目指し、県内初の大規模な施設として、原木の集積から製材・加工までを一体的に行う「県産木材供給センター」が宍粟市に整備されることが決定されました。誠に、時宜にかなったことと嬉しく思っております。

今、川上側の森林組合系統は、このセンターをはじめ、製材業界へ原木をいかに安定的に供給していくかが問われております。

そのためには、森林所有者の小規模な伐採現場を取りまとめ、路網の整備や機械化等により搬出経費の低コスト化を図り、森林所有者が再造林に向け意欲が持てるようにすることが原木の安定供給につながるのではないでしょうか。

林業は、成長した樹木を伐採し、その跡地に植栽することを繰り返すことにより、将来にわたり継続的に再生産が可能となる循環型産業です。また、公益性と経済性を兼ね備えた産業です。

皆さん、林業の再生に向け、川上から川下までが一丸となって、元気な森づくりと製材業の改革に邁進しようではありませんか。

終わりになりましたが、皆様のご健勝とご活躍を心より祈念申し上げ、新年のご挨拶といたします。

平成十九年度　秋の叙勲受章・兵庫県林業賞受賞の皆様

兵庫県農林水産部農林水産局林務課

■旭日双光章

しそう森林組合代表理事組合長

生垣　友信　氏

■主なご功績

平成8年に旧一宮町森林組合の代表理事組合長に就任され、間伐推進及び間伐材の利用促進、月給制現業職員制度の導入等労働環境改善による林業労働者の育成確保などを通じて、森林組合の活性化と地域林業の振興に尽力されました。

永年の懸案であった宍粟市内4森林組合の合併では、合併推進委員会副会長として、しそう森林組合の誕生に尽力されました。

平成18年に同組合の初代代表理事組合長に就任され、積極的な事業展開を図るとともに、平成16年に発生した風倒木被害の早期復旧に卓越した指導力を発揮し、地域の森林再生に多大な貢献をされました。

■瑞宝単光章

北但西部森林組合作業班長

西澤　功　氏

■主なご功績

昭和43年に旧温泉町森林組合中辻造林班員として採用され、チェーンソーや刈払い機を率先して使用し、機械化を推し進めるとともに、その技術を研鑽されました。

昭和46年に近隣4町の森林組合の合併により、北但西部森林組合作業班員となり、特に兵庫みどり公社造林では、北但西部地域の大部分の事業地の植栽事業に関係し、公社造林の推進と適切な保育作業の実施に寄与されました。

また、後継者の育成に向け、労働条件の改善、職場環境の改善にも貢献されています。平成10年に作業班長に就任され、自らの卓越した林業機械の使用技術を班員に広め、若手作業員の技術向上に尽力されています。

■林業賞

多可郡多可町

藤村　重芳　氏

■主なご功績

低コスト化による集約的林業経営と地域林業の振興

藤村重芳氏は、多可郡多可町の所有山林（55 ha）において、高密度路網による低コスト化を図り、収入間伐の実施により集約的な林業経営を確立するとともに、自らの所有森林を長伐期大径材生産のモデル林として設置するなど地域の模範となる林業経営を実践されました。

また、県下では初めての試みとなる「立木販売システム」に取り組み、新たな地域の木材供給システムの構築に貢献されました。

宍粟市山崎町

小林　善雄　氏

■主なご功績

収入間伐による低コスト林業の確立とその普及

小林善雄氏は、姫路市安富町等の所有山林（339 ha）において、作業道開設と既存機械の組み合わせにより、誰もが取り組むことの出来る効率的な間伐主体の低コスト林業経営を確立し、地域内外の森林所有者に対しその低コスト林業の指導と普及に貢献されました。

また、列状間伐等の新しい施業方法や森林の公益的機能を高める施業にも積極的に取り組むなど地域林業の模範となる施業を実践されました。

美方郡新温泉町

中村　優　氏

■主なご功績

針広混交林整備と優良広葉樹苗木の生産

中村優氏は、美方郡新温泉町の所有山林（33 ha）において、但馬ケヤキの復活を目指し、県下でいち早く広葉樹植栽に取り組み、高密度路網と広葉樹造林による針広混交林整備を行い、地域林業の模範となる林業経営を実践されました。

また、自ら率先して広葉樹苗木生産に取り組むとともに、地域における生産者の技術指導及び人材育成に貢献されました。

治山・林道コンクール受賞者の紹介

平成19年11月22日(木)に東京都千代田区丸の内「東京商工会議所」ビルで開催された「2007治山・林道のつどい」に先立ち、(社)日本治山治水協会、日本林道協会主催による治山・林道の各種コンクール入賞者の表彰が行われました。兵庫県からは、民有林治山工事コンクールにおいて、平成17年度の「農林水産大臣賞」、平成18年度の「林野庁長官賞」に引き続き、平成19年度も佐用町の㈱飛鳥土木が「林野庁長官賞」を受賞されました。

1、第23回民有林治山工事コンクール

林野庁長官賞に株式会社飛鳥土木(佐用町)が輝く

対象工事は、平成16年台風23号災の風倒木被害により、根返りを伴った広範な山腹崩壊が発生した佐用町水根地区の復旧治山事業で、現場は、急斜面でしかも被害風倒木が折り重なって堆積しており、材の跳ね返りや落下の危険性が高い状況にあったが、作業員の安全教育の徹底や現場での安全対策に努め、事故無く風倒木処理を適切に実施された。

更に、工事施工にあたっても、搬出した風倒木被害木を選別し筋工や柵工への積極的な活用や構造物の養生に努めるなど施工管理を徹底された。

また、施工地直下が町道であったため、工事施工時の安全性や工事車両の進入等にあたり、常時、地元調整を行うとともに、地域行事への参加や地域ボランティアを行うなどコミュニケーションに努めるなど総合的な取組が評価された。

山腹被災状況

山腹復旧状況

安全管理(ミーティング)

2、第23回民有林林道工事コンクール

日本林道協会長賞に上治技建株式会社(養父市)

対象工事は、平成18年度県単独林道整備事業新設工事(森林管理道：八木谷大谷線・尾崎～大谷工区)で、上治技建は日頃から品質管理、出来型管理が優れており、鋼製L型擁壁や鋼製大型カゴ枠など構造物の現場仕上げ、出来栄え等も良好であった。施工に際しては、森林所有者など地元関係者との調整を適正に行うとともに既設林道の草刈・路面補修等に配慮するなど施工管理体制が評価された。

鋼製枠工

起点から100m付近

3、第8回民有林治山木材使用工事コンクール

(社)日本治山治水協会長賞に 姫路農林水産振興事務所・治山課

対象工事は、平成18年度共生保安林整備事業(姫路市山吹地内)で、人家や道路を保全する落石防護柵主体の工事であるが、落石緩衝材に県産間伐材を使用するとともに、景観に配慮して基礎コンクリート表面への化粧型枠の活用をはじめ板柵工への使用済み型枠材の再利用など多段的な木材利用への取組が評価された。

落石防護柵間伐材緩衝材

木材使用状況

4、第8回民有林林道木材使用工事コンクール

日本林道協会長賞に県但馬高原林道建設事務所

対象工事は、平成18年度森林基幹道管理事業(峰山線・宍粟市一宮町東河内～神河町川上地内)で実施した法尻の木柵工と木製の側溝蓋である。

県では平成16年台風23号災害等により甚大な風倒木被害等を受け、その際に発生した被害木がストックポイントに大量に集積されていましたが、それらの有効活用を図るため、林道の法尻木柵工と木製側溝蓋として利用した取組が評価された。

法尻の木柵工

木製側溝ふた

特定非営利活動法人「ひょうご森の倶楽部」の紹介

～全国育樹活動コンクールで「農林水産大臣賞」を受賞～

特定非営利活動法人 ひょうご森の倶楽部　会長 福田　正

平成19年度全国育樹活動コンクールの団体の部で、我が〝特定非営利活動法人　ひょうご森の倶楽部〟が栄えある「農林水産大臣賞」に選ばれ、平成19年11月4日に熊本県阿蘇市で開催された第31回全国育樹祭において表彰されました。

このコンクールは、昭和57年から（社）国土緑化推進機構が実施しているもので、育樹に関する技術開発や普遍的技術の導入実践、地域の育樹活動の普及、向上に著しい実績をあげた個人や団体が選ばれ表彰されるものです。

当倶楽部が表彰された理由（功績概要）は次のとおりです。

『ひょうご森の倶楽部は、兵庫県が主催する「森林ボランティア講座」修了者である「親林隊」の有志が集まって平成8年4月に結成され、その後の修了生など森づくりに興味のある会員が加わり、現在722名の会員を有する県内最大の森林ボランティア団体である。

兵庫県内21箇所の活動地において、さらには「森林ボランティア講座」等で実技指導の講師も務めるほか、他の森林ボランティア団体の活動を支援するなど、森林ボランティア活動の推進に大きく貢献している。

平成16年には特定非営利活動法人の認定を受け、学校林の整備や里山整備体験イベントの実施など、森の働きや森づくり活動の大切さ、楽しさを広く県民に普及啓発する活動にも力を入れており、県民総参加の森づくりの推進に大きく貢献している。』

先ずこの受賞に対し全倶楽部会員と喜びを分かち合うとともに、多くの先輩諸氏、関係者、倶楽部会員皆様のご指導・ご協力の賜物であったことに感謝とお礼を申し上げます。

第31回全国育樹祭に参加して

11月3・4日に熊本県で開催された「第31回全国育樹祭」授賞式には会を代表して出席し、賞状と記念盾をいただきましたが、それにもまして3日のレセプションでは皇太子殿下より受賞者一人ひとりに『どのような活動をされていますか？』と直々にお声がけをいただき、当倶楽部の様々な活動、取り組みをご説明し、『これからも頑張ってください』との励ましのお言葉を頂戴してきました。

また、大会会長、農林水産大臣、（社）国土緑化推進機構役員、各受賞者の方々との情報交換・意見交換や活動報告など、緊張の中にも有意義な交歓が出来た事も大きなお土産でした。

この受賞は私たちの森林整備活動の結果を評価されたものではなく、活動の過程、人材育成活動、広く一般県民参画の普及啓発活動等などを評価いただいたものであり、皇太子さまのお言葉のとおり『これからも頑張れ』という意味の賞であると認識しております。また、ますます私たちの活動への期待も大きくなると思いますし、よりシビアな目で見られるようになりますので、この賞を糧に倶楽部会員共々「倶楽部設立の目的」を再認識し活動が一層楽しく活発に行われ、そしてますます多くの県民の皆様が森づくりに参加され環境問題への理解者の輪が広がっていける様に、今後とも努力してまいりたいと思っています。

「ひょうご森の倶楽部」の紹介

ひょうご森の倶楽部は、兵庫県が主催する「森林ボランティア講座」修了者である「親林隊」の有志が集まって平成8年4月に結成され約50名の会員で発足しました。

その後の同講座修了生や森づくりに興味のある人が会員に加わり、現在722名の会員を有する県内最大の森林ボランティア団体として活動を継続しています。

平成16年10月には、特定非営利活動法人としての認証を受け次の目的を具現化する為、更にステ

ップアップした〝ひょうご森の倶楽部〟を目指して再スタートいたしました。

目標

地球規模で進行する自然環境の悪化に対して、その荒廃を食い止め、種の存続につながる生物多様性を維持し、良好な自然環境を維持・保全するための森林整備に関する事業を行い、環境の保全に寄与することを目的としている。

活動状況

1．森林ボランティア活動（森を守り森を育てる）

現在、県下22箇所の活動地で各活動地リーダーを中心に地元住民との交流を図りながら、人工林の除間伐、枝打ちや里山林の下刈り、除伐、竹林整備、混交林を目指した植栽。文化林、学習の森としての整備、遊歩道・散策道づくりなど整備保全・景観維持活動を行っている。

また、リーダーについては毎年定期的に講習会、合宿研修会などで知識習得、安全作業の再確認、技術向上などを図っている。

▼混交林をめざして広葉樹の植栽

▲活動地での道づくり

2．森とのふれあい活動（森を知り　森を学ぶ）

除間伐材の利用で炭焼きや、きのこの植菌・収穫、きのこ狩りや山菜取り、自然観察会、自然木での木工教室、ツル編み・草木染めなど、一般県民への呼びかけ公募で共に里山の恵みを学んでいる。

▼学校林での炭焼体験

▲野鳥観察会

3．教育研修活動

新規加入者や一般の森林ボランティア活動初心者対象には毎月「はじめて教室」を実施。

県主催の一般県民対象の「森林ボランティア養成事業」受託・企画運営や「安全リーダー養成講座」の技術指導の講師も務めるほか、県教育研修所主催の高校教員研修や企業、他の森林ボランティア団体からの要請に応え各種研修講座の実施、小学生と一緒に学校林での整備保全・炭焼き・環境学習授業にも参画し、市教育委員会の〝お山の学校〟や中学校に於けるボランティア活動、環境教育にも力を注いでいる。

4．普及啓発活動

県主催の「ひょうご森の祭典」「ひょうご森の日」等では一般県民対象に木工教室・間伐体験・植物観察会の実施。また、独自企画の里山整備体験イベントやシンポジュームの実施、近年では漁業者との森づくりなど森の働きや森づくり活動の大切さ、楽しさを広く県民に普及啓発する活動にも力を入れており、県民総参加の森づくりの推進に大きく活動の輪を広げている。

▼森林ボランティア講座

▲動力機使用者安全研修

▼「森の祭典」人気の木工クラフト

▲里山林での交流コンサート

このような、当倶楽部の活動にご理解ご支援を頂くとともに、多くの方々のご参加をお待ちしています。

林道「仏ノ尾線」が全線開通

兵庫県但馬高原林道建設事務所

平成２年度から過疎代行林道として県が開設工事を進めてきた林道「仏ノ尾（ほとけのお）線」が全線開通し、10月19日に県と香美町の共催による開通式が開催されました。

林道「仏ノ尾線」は、美方郡香美町小代区石寺の国道４８２号を起点とする林道「大照線」（平成元年10月開通）延長１２、７６３ｍの終点、小代区大谷（小長辿）を起点として、仏ノ尾山（１、２２７ｍ）の東側山麓を縦走し、小代区佐坊を結ぶ幅員４ｍの自動車道２級の林道で総延長は１０、７９０ｍです。仏ノ尾線は、仏ノ尾山山麓に広がる小代森林地帯（標高５００～８５０ｍ）の５９４haの広大な森林を利用区域とし、針葉樹と広葉樹が混交した豊かな森林資源を有しています。

本林道は、旧美方町が民有林林道開設事業として昭和45～47年度に延長１、８１３ｍを開設し、平成２年度から平成18年度（繰越を含む）まで、県営の過疎代行林道として延長８、９７７ｍを開設しました。総事業費は、町施行を含み、約17億87百万円となっています。

林道「仏ノ尾線」位置図

林道「仏ノ尾線」概要

1. 開設経緯 美方町施行 県施行	 昭和45～47年度（３カ年）　事業費　23,890千円 平成２～18年度（17カ年）　事業費 1,763,600千円
2. 総延長	総延長10,790m（美方町施行1,813m　県施行8,977m）
3. 総事業費	1,787,490千円
4. 利用区域面積	594ha
5. 道路規格	自動車道２級　幅員４ｍ　設計速度20km/h

本林道の開設工事は、但馬地域特有の脆弱な地質と雪深い気象条件の下で行ない、特に広葉樹林内ではトチ・ミズナラ等の巨木を残すよう現地踏査を繰り返し、自然に優しい線形に努めました。また、県産木材を積極的に利用したり、補強土壁工・鋼製Ｌ型擁壁工を採用することで、残土を減らすなど自然環境に配慮しつつ、併せてコスト縮減を図った工法を導入しています。

近年、温室効果ガスによる地球温暖化が世界規模で大きな問題として取り上げられており、１９９７年に京都で開催された地球温暖化防止京都会議で採択された「京都議定書」では、日本の温室効果ガス削減目標を６％とし、このうち約３分の２の3.8％を森林が担うことになっています。

林道「仏ノ尾線」W=4.0m　L=10,790m

そうした中、温室効果ガス（CO_2）を吸収する森林の重要性は年々高まり、森林を整備し森林が持つ多面的機能を発揮させるため必要な、基盤となる林道の重要性が高まってきています。

香美町は、平成17年４月に矢田川流域に広がる旧香住町・村岡町・美方町の三町が合併した町で、

矢田川最上流の、小代森林地帯に位置する本林道は、そういう意味でも大きな役割を果たすものと期待されます。

開通記念碑除幕式（H19.10.19）

開通記念植樹

開通式では、西村農林水産部長、藤原香美町長ほか関係者の手で、開通記念碑に掛けられた白布が除幕され、その後緑の少年団と一緒に記念植樹を行い、開通を祝いました。

記念碑には、県治山林道協会長の谷洋一氏揮毫による「山守」の文字が刻まれています。これは、この林道が末永く大切に利用され、山を大切に守って欲しいと言う思いが込められて書かれたものです。

本林道の開通式で、最終工事の区間が県から香美町に引き継がれましたが、全線開通した林道「仏ノ尾線」は、今後香美町が取り組んでいる〝美しい山・川・海　人が躍動する交流と共生のまち〟づくりに大きな役割を果たして行くものと期待されています。

森林管理道「仏ノ尾線」年度別実績

（単位／延長：m　事業費：千円）

施行主体	施行年度	延長	事業費	香美町（旧美方町）			
				大谷工区		佐坊工区	
				延長	事業費	延長	事業費
町	S45	520	5,003			520	5,003
	S46	410	4,500			410	4,500
	S47	883	14,387			883	14,387
	計	**1,813**	**23,890**			**1,813**	**23,890**
県	H2	443	50,000	443	50,000		
	H3	298	40,000	298	40,000		
	H4	555	37,000			555	37,000
	H5	295	50,000			295	50,000
	H6	290	70,000			290	70,000
	債務	201	48,200			201	48,200
	H7 補正	710	80,000			710	80,000
	H9	309	80,000			309	80,000
	H10 補正	913	165,300	518	78,900	395	86,400
	H11	1,056	183,000	411	96,600	645	86,400
	債務	420	100,000			420	100,000
	H12	388	80,000	388	80,000		
	H13	480	185,000	260	91,100	220	93,900
	補正	439	100,000			439	100,000
	H14	211	75,000	211	75,000		
	H15	470	93,000			470	93,000
	H16	280	132,300	0	50,000	280	82,300
	H17	511	87,000			511	87,000
	H18	708	107,800	708	107,800		
	計	**8,977**	**1,763,600**	**3,237**	**669,400**	**5,740**	**1,094,200**
合計		**10,790**	**1,787,490**	**3,237**	**669,400**	**7,553**	**1,118,090**

※施行年度には翌年度に繰越したものを含む

紅葉の瀞川・氷ノ山林道で自然観察ウォーキングを実施

1、開催概要

平成15年から森林基幹道「瀞川・氷ノ山林道」で開催している自然観察ウォーキング、今年も新緑のウォーキングに続き、去る10月24日(水)・25日(木)の二日間、紅葉の氷ノ山・瀞川山周辺の自然を満喫しました。

このウォーキングは、都市住民を中心に森林・林業の大切さや林道の役割等について理解を深めて頂くために、当治山林道協会と兵庫県治山課、但馬高原林道建設事務所との共催で、地元養父市の協力を得ながら開催しているものです。

今回も、新聞記者発表と併せ、県下全戸配布の県広報紙「県民だよりひょうご」で参加者を募集したところ、定員40名のところ107名の応募を頂き、抽選で選ばれた方の参加となりました。

2、行程

24日(水)　三ノ宮→養父市「あゆ公園」→横行渓谷→林道：氷ノ山線→大段ケ平→坂の谷ブナ林→巨木谷→鵜縄人工林→別宮の大カツラ→ハチ高原（泊）

25日(木)　ハチ高原→林道：瀞川線→鉢伏山鞍部・氷ノ山眺望→瀞川山登山→木の殿堂・兎和野の大カツラ→但馬高原植物園・和地の大カツラ→朝来市竹ノ内・治山現場→三ノ宮

三ノ宮を8時30分に大型バスで出発し、資料配付、行程説明の後、講師として二日間同行して頂いた近藤講師（兵庫みどり公社参事）から、テレビを使ったスライド画面で、瀞川・氷ノ山林道周辺の四季を移ろう自然や樹木等植物の風情を映し、自然観察の予備知識を入れていただきました。

11時過ぎ、養父市の「あゆ公園」で市にご協力頂いたマイクロバスに乗り替え、同乗して頂いた市職員のご案内を頂きながら氷ノ山山系へ向かった。

横行渓谷の入口にある湧水「ぶなのしずく」で喉を潤し、紅葉の始まった渓谷の木々の間を縫いながら、瀞川・氷ノ山林道で最も眺望の開けた「大段ケ平」に上がり昼食を取った。氷ノ山を目の当たりにし、鉢伏山1、221m、蘇武岳1、074m、妙見山1、139m、三川山887mなどパノラマに拡がる但馬山岳の景観は天候にも恵まれ圧巻でした。

午後は、宍粟市の坂の谷国有林のブナ林に向かい、林道最高峰1、250m付近から、ウォーキングをしながらブナの黄葉を存分に味わって頂きました。

特に、海抜千m以上のブナ林の黄葉（写真1・2）が見頃で、感動のウォーキングとなりました。

写真1　黄葉のブナ（額縁ブナ）

また、引き返して「大段ケ平」からウリハダカエデやミズナラ、トチノキ等樹木や草花などの自然観察と眺望を楽しみながら「巨木谷」まで散策して頂きました。「鵜縄」のスギ人工林では、和田山農林振興事務所から鵜縄式間伐や木材価格の状況、林業の現状等を説明して頂き（写真3）、林業の厳しさを改めて認識して頂きました。初日の最後は、水との共生のなかで悠久の時を刻んできた別宮の大カツラを見学し、氷ノ山山系の自然に触れて頂きました。

ハチ高原の宿では、夕食後、映像を使い治山・林道事業の状況や県民緑税による災害に強い森づくりなど業務紹介（写真4）に併せ、但馬の雪景色や巨木、また、映像を通じた氷ノ山登山などを楽しんで頂きました。

写真2　黄葉のブナ

写真3　間伐･林業の説明

写真4　災害に強い森づくり等の紹介

好天に恵まれた翌日も、８時過ぎに宿舎を出発し、瀞川林道の鉢伏山登山口から氷ノ山、鉢伏山の素晴らしい眺望を味わったのち、瀞川山（1、039ｍ）へのミニ登山を楽しんで頂きました。次に、香美町村岡区の兎和野高原では兎和野の大カツラ、木の殿堂を見て頂き、但馬高原植物園では、和池の大カツラ（写真５）や但馬山岳の貴重な植物等を見学（写真６）しました。

写真５　和池の大カツラ

写真６　但馬高原植物園での自然観察

また、今回はじめて治山事業の現場を見て頂くこととし、平成16年10月の台風23号豪雨災害により、全壊３戸、半壊１戸などの山腹崩壊をした和田山町竹ノ内の復旧現場（写真７）を見て頂き、改めて土砂災害の恐ろしさを認識して頂きました。

復路では、北近畿豊岡自動車道の道の駅「但馬のまほろば」で休憩したあと、三ノ宮に17時30分頃帰ってくることができました。

今回の行程では、従来の視察地に加え、別宮の大カツラ、兎和野の大カツラ、更には治山現場など盛沢山の内容となりましたが、参加者のご協力により効率的に実施することができました。

写真７　治山事業災害復旧現場説明

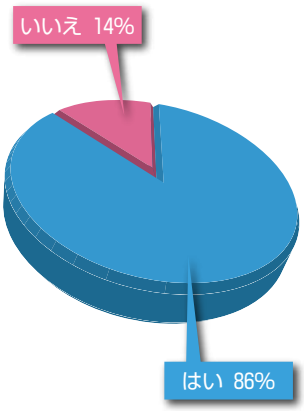
３、参加者の感想と意見

今回の参加者は、性別では女性が６割、年代では50～80歳代で60歳代が最多でした。

帰路のバス車中で、アンケートを実施したところ、ほとんどの方がとても楽しかったとお答えがあり、次回も参加したい方は８割にのぼりました。

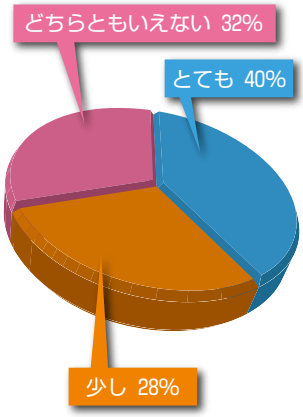
【アンケート結果（抜粋）】

Q、林道は、主に林業作業のための道であることは知っていましたか。

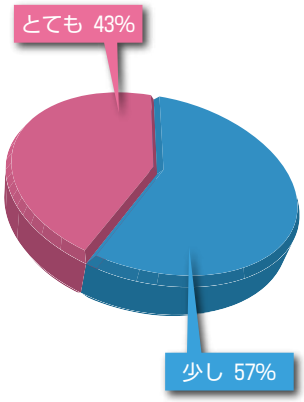


Q、自然環境に対して、これまで林道はどのようなイメージをお持ちでしたか。

自然環境によいか

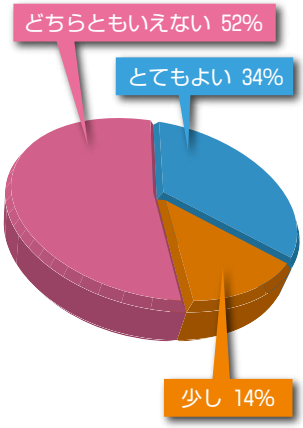


自然環境に悪いか



林道の目的は多くの方が知っておられ、その上で、少なからず自然環境に悪いイメージがあるようで、具体には、必要以上の工事をしている、マスコミによるスーパー林道のイメージ、用がなければ通ってはいけないもの、その土地に住んでいる人のためのもの等のイメージがあるという感想でした。

Q、今回の林道は自然環境に対してどのように感じましたか。

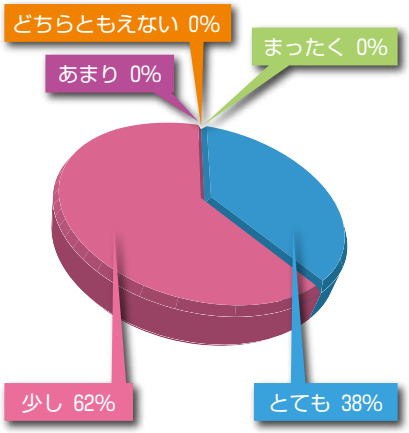


林道を実際に通っていただくと、自然環境に良いという方の割合が5割になります。
実際に林道を見て通っていただいた後のイメージとそれまでのイメージは異なるようです。

Q、林道では自然に配慮したり、県産材を用いた工事を行っています。これらについてどのように思われますか。

メンテナンスをどうしていくかが問題、小動物に配慮した側溝など大変に大事だが本当に小動物が使うのか、腐ったもの（木材）はやり代えて欲しいなどの意見があり、維持管理の重要性について鋭く見ておられる方もいらっしゃいました。

Q、間伐や兵庫県の林業の現状についての説明は理解できましたか。



説明すれば理解いただけることが示されていて、直接の説明が林業の現状を理解していただくには有用ということになります。

【いただいた意見・感想】

- イベントの回数を増やすためにもう少しお金のかからないように工夫して多くの人が数多く利用できるように工夫してください。
（費用面よりもスタッフが他の職務と兼務なので回数が増やし難い状況です）
- 旅行会社の場合50人位を添乗員1人で付き添っておられます。スタッフが多すぎると思いました。
（屋外での安全管理や現地での説明要員など役割分担していますが、登山ツアーなどを参考に検討させていただきます。）
- 今回参加するまで林道の重要性をあまり認識していなかったのでこれからは何らかの形で関わりを持ちたい。治山事業の説明を受け重要性を初めて知った。
（林道を知って重要性を認識していただき、ツアーの目的は達成されたと思える一方、林道・治山事業のＰＲをさらに進める必要があることも示唆いただきました。）

最後になりましたが、林道での移動のためにバスを提供して頂き、添乗して林道沿線のガイドを頂いた養父市の方々に御礼申し上げるとともに、ご参加の皆様のご協力を持ちまして無事終了できましたことを感謝申し上げます。

京都・兵庫合同治山事業現地検討会を開催

兵庫県農林水産部農林水産局治山課

1．検討会の発案

京都府と兵庫県は、丹波市から福知山市へ由良川が流れており、また、人的には平成7年の阪神淡路大震災で治山事業に係る災害復旧応援を京都府からいただき、平成16年度からは人事交流するなど、隣接の府県ではつながりが多いところです。

今回が初めての京都府・兵庫県治山事業現地検討会は、平成16年災害の風倒木被害地の復旧状況を、治山事業に携わる職員に見せ、工法等について意見交換したいという京都府からの申し出で始まりました。

2．概要

検討会は11月8～9日の2日間に行われ、初日に兵庫県で2箇所、京都府で1箇所現地を視察、翌日に京都府の現地をさらに1箇所視察して意見交換をしました。

兵庫県では、丹波市で本数調整伐を実施後、表土の流出防止および下層植生の基盤を確保するため、伐採木を筋工として利用している状況を、次に谷止工のコンクリート型枠に合板ではなく県産材のスギを継ぎ合わせた型枠を利用している事例、その後、養父市の山腹崩壊、風倒木被害跡地の現地では、強風による木の揺動で地盤が緩んでいることが判明したため地山補強工を施工した事例を見ましたが、地山補強工は京都府では事例がない工種で興味深く見ていただきました。

▲本数調整伐現地

▲地山補強工現地

京都府の与謝野町では、平成16年災害で渓流に堆積した流木を現地で丸太に加工して残存型枠として谷止工に利用した事例、防潮堤の被災・防砂林造成の事例などいずれも兵庫県では事例がない現地を見ることができました。

翌日の網野町の現地では、震災以降、目にしていないブロック積谷止工の施工事例を見ました。

▲木製残存型枠（施工中）

▲木製残存型枠（既設）

翌日の検討会では、コンクリートの型枠について、コスト面・施工面・管理面など様々な観点から、全員発言を原則として4班に分かれてグループ討議が行われました。

型枠がテーマに選ばれたのは、京都府では府産材とロシア産カラマツを交互に積層した合板を使用していたのですが、生産工場が府外に移転し、輸送過程で発生する温暖化ガスが平均を上回るということから、丸太の木製残存型枠を採用するための検討をしていることが背景にあります。

コスト面では設置歩掛を見直しすれば安くなるのではないか、施工面では丸太ではなく太鼓引きの方が施工性がよい、管理面ではコンクリートの充填確認ができない、表面強度試験ができない、型枠が腐朽した場合の対策が必要など、多岐にわたって意見が出て参加者が共通認識を持つことができたことは有意義でした。

▲ブロック積谷止工

▲防潮堤被災状況

▲検討会での説明

あとがき

今回の現地検討会は、県下の全ての事務所から参加してもらうのが理想でしたが、経費節減の折から、視察対象現場がある事務所に限定して最小限の人員で参加することとなりました。

兵庫県マスコット「はばタン」も森づくりを体験！ ひょうご森の日（全県イベント）

兵庫県農林水産部農林水産局豊かな森づくり課

森を守り、育てる大切さを広く県民にＰＲし、多くの県民のみなさんがこぞって森に入り森づくり活動を実践する「ひょうご森の日」の全県イベントを、10月28日(日)に県立甲山森林公園で開催しました。

会場には約2、000人が訪れ、初秋の森の中で楽しい1日を過ごしていました。

◇多彩なイベントに参加者も大満足

当日は、県下各地の森林ボランティア団体、24団体、160人以上の参画を得て、森に関する体験イベントが行われ、日頃、森とふれあう機会の少ない参加者にとっては、森について考え、森を知ることができた有意義な1日でした。

体験プログラムは、「森を育てる」、「森で遊ぶ」、「森で学ぶ」、「森を楽しむ」4つのテーマにより開催しました。

●「森を育てる」プログラムでは

知事と県民に加え、兵庫県マスコット「はばタン」と、愛・地球博の公式マスコットキャラクター「モリゾー」と「キッコロ」も参加して記念柴刈りが行われました。その他にも、来場者が間伐や里山整備体験を行うなど、森林ボランティア活動に初チャレンジして、森を育てる大切さや必要性について学んでいました。

▲記念柴刈りの最後はみんなで記念撮影

●「森で遊ぶ」プログラムでは

森林ボランティア団体主催の木工クラフトや竹細工コーナーをはじめ、県立山崎高等学校によるチェーンソーアートの実演などがありました。

来場者は、チェーンソーの大きな音と、その豪快さから創られる繊細な技に魅了され、森で遊ぶ楽しさを実感していました。

▲丸太が動物に変身

●「森で学ぶ」プログラムでは

県立甲山森林公園が主催する野鳥観察会や、プロの写真家による里山写真撮影セミナーが実施されたほか、森林ボランティアの交流サロンでは、県下の森林ボランティア活動を来場者に広くＰＲし、森づくり活動への参加を呼びかけました。

また、平成18年度より実施している「災害に強い森づくり」の普及啓発コーナーでは、森を守り育てることで、農山村の住民のみではなく、都市住民も恩恵を受けているという話に来場者は真剣な眼差しで聞きいっていました。

▲「災害に強い森づくり」に納得

また、兵庫県治山林道協会の土石流実験コーナーでは、土石流実験装置や降雨体験装置を使った土石流の学習体験のほか、六甲山の災害展示が行われました。子供から大人までが災害の悲惨さや恐ろしさ、治山事業の必要性、森の大切さを実感していました。

森の保水力体験コーナーでは、日頃見ることの出来ない土壌中の水の動きを見て、豊かな森と荒廃している森との保水力の違いに納得し、森がダムの役割を果たしていることを再認識していました。

●「森を楽しむ」プログラムでは

日本ボーイスカウト三木第2団による「theロープワーク」や、三木山フォレストコンパニオンクラブによる「森遊び体験プログラム」が実施されました。

ロープワークでは、生活に役立つロープの結び方やロープを使った遊びを教わり、参加者も興味を持って体験していました。

また、森遊び体験コーナーでは、ツリークライミングをはじめ、石窯料理など多数のプログラムが実施され、子供から大人までが1日中楽しんでいました。

▲はじめて見る土壌内の水の動きにビックリ

▲土石流実験を見て治山事業の重要性を認識

▲移動式石釜を設置してチキンやピザも焼きました

平成19年度兵庫県緑の少年団活動発表大会の開催

兵庫県緑の少年団連盟

緑の少年団は、次代を担う子どもたちが森林での学習活動、地域の社会奉仕活動、レクリエーション活動を通じて、自然や人を愛し、自ら社会を愛するこころ豊かな人に育っていくことを目的とする、子どもたち主体の団体です。

平成2年には、少年団活動の充実強化を図るため「兵庫県緑の少年団連盟」を設立し、現在、221団が連盟に加入し、6、541名の団員が県下各地域で活躍しています。

連盟では、緑の少年団員が日頃の活動成果を発表しあって互いに情報交換するとともに、仲間づくりを進めることを目的として、各地域の緑の少年団が一堂に会する「兵庫県緑の少年団活動発表大会」を毎年開催しています。

今年は、11月10日(土)に三田市の「兵庫県立人と自然の博物館　ホロンピアホール」で開催しました。県下各地域から緑の少年団や引率者等約200名が参加し、各地域から選抜された代表の5団が活動発表を行いました。

活動発表では、各団がパワーポイントを活用してプレゼンテーションに工夫を凝らし、地元の森林での学習活動、大きな声を出して頑張った緑の募金活動など日頃の活動成果を発表し、会場の少年団員たちは各団の特色ある活動に聞き入っていました。

▲活動発表　坂越小学校緑の少年団

また、活動発表審査の時間を利用して、森のインストラクター26名の協力を得て、木工教室や県立人と自然の博物館内の見学を行い、団員たちは楽しみながら学習しました。

木工教室等の後、(財)野外活動協会専務理事の清水勲夫審査員長より審査結果の発表が行われました。

最優秀賞には、三田市の三田市緑の少年団が選ばれました。20の小学校からなる連合の団体ということや、外部の指導者の支援を受けて下草刈りをした体験を通して、豊かな森は手入れをしないとできないということを、前を向いて大きな声で発表したことなどが高い評価を受けました。

▲館内見学

さらに、養父市の養父緑の少年団と丹波市の神楽小緑の少年団が優秀賞、加東市の米田小学校緑の少年団と赤穂市の坂越小学校緑の少年団が努力賞を受賞しました。

発表した全ての団には、兵庫県産のスギ材でできた表彰状と、JA兵庫信連の協賛による活動助成金が授受され、会場はより一層の拍手に包まれました。

なお、最優秀賞を受賞した三田市緑の少年団は、第32回全国育樹祭の併催行事として平成20年秋に愛媛県で開催される「全国緑の少年団活動発表大会」の県代表として推薦されることになっています。

大会に参加した緑の少年団の皆さんが、今回学習した他地区の活動内容を活かし、それぞれの団活動が一層発展していくことを期待しています。

▲最優秀賞　三田市緑の少年団

○発表団と発表テーマ

阪神地区代表
三田市緑の少年団（三田市）
「豊かな森にするためにわたしたちができること」

北播磨地区代表
米田小学校緑の少年団（加東市）
「米田の自然と緑に親しみ楽しむ」

西播磨地区代表
坂越小学校緑の少年団（赤穂市）
「山と海は　つながっている」

但馬地区代表
養父緑の少年団（養父市）
「緑と親しみ　緑と共に生きよう！」

丹波地区代表
神楽小緑の少年団（丹波市）
「神楽バイカモランド」

「壊れない道づくり講習会」の開催について

兵庫県立農林水産技術総合センター森林林業技術センター　春名貞夫

兵庫県指導林家会は、（社）兵庫県治山林道協会の後援を受け、過日、11月12日（月）宍粟市一宮町の生栖公民館並びに生栖生産森林組合所有林において「壊れない道づくり講習会」を開催しました。ついては、作業道の必要性と講習会の概要を報告します。

▲当日は県内各地から、森林・林業関係者だけでなく、京都大学大学院の学生も加え、総勢110名が参加した。

■なぜ「壊れない道」なのか

現在の林業は木材価格に近い生産コストがかかることから奥山から木材を搬出しても森林所有者の手元にお金が残りません。このことから搬出をする、あるいは森林を管理するための作業道を開設してコストを下げる努力が不可欠です。また、作業道の維持管理費がほとんどかからなく永続的に使用できる道でなくてはなりません。仮にm当り300～500円で開設できたとしても、管理費用が高くつく、あるいは災害を発生させるような道では自然破壊となってしまいますし、逆にm当り5～10万円にもなりますと費用の回収が出来ません。

▲開設コストが安く、使い勝手がよく、壊れない作業道、幅員2.5m（山田新也氏所有林、神崎郡神河町作畑）

■「壊れない道」を開設するためには

今回、講師に、大阪府千早赤阪村において24m／haの高密度路網により、半世紀に渡って収入間伐を行なっておられる大橋慶三郎氏（大阪府指導林家）にお願いし、「壊れない道づくり」を中心にお話していただきました。また、大橋氏には事前に航空写真、地形図、地表写真を送付し、路線計画図を作成していただいていました。さらに、他の講師として大橋氏の指導を受け、急峻な吉野地域で林業のための作業道を開設されている岡橋清元氏（清光林業株式会社代表取締役）からは、自らの体験に基づくお話、榎本慎一氏（大橋学校門下生）には、路線計画図に基づき現場踏査並びに道づくりをしていただきました。

▲雨が降る中、現場で生産森林組合長から聞き取りされ、的確な指示をされる大橋慶三郎氏

大橋氏は、「危険なところには道を付けないこと」、「補修費がかからない道づくり」そのための「調査を十分に行う」と強調されましたが、ここまでは、だれにでも理解できるし、あたりまえのことですが、航空写真、地形図からデータを取り込むことが重要であるとの話には、はっきり言って1～2回聞いただけでは、なかなか理解できるものではありませんが、重要性は理解していただいたのではないでしょうか。

▲事前にお送りした、航空写真・施業図・地表図から大橋氏が作成された路線計画図（黒く塗りつぶした箇所が崩壊の恐れがある箇所）

■道の計画と現地踏査

作業道開設予定地は、「誰が見ても道がつかないと思われる」宍粟市一宮町生栖の約60ha人工林を計画しました。区域内には十分建築材として利用できるスギ・ヒノキが成立しており、組合では作業道の開設が長年の懸案事項となっていました。

事前に大橋氏よりいただいた計画路線図（右記図面）で黒く塗りつぶしてある箇所（実際は赤で表示）が崩壊の恐れがある箇所で道を付けてはいけないところだそうです。この箇所は地形図と地質図から国土地理院発行の1／25、000に貼り付けた図から転記されたものです。なぜ、国土地理院の1／25、000かというと、1／5、000の施業図だと現地とかなりのずれがあるからだそうです。私も施業図を持参して今回の山を歩きましたが、「現地には小谷があるのに施業図にはない」といったようなことがありました。

次に重要な作業は現地踏査です。「林内路網の最終決定は現地を見て行うものである」との恩師大橋氏の教えにより、榎本氏が講習会の翌日から現地踏査をされました。十分、山を見るという基本から徹底した調査をされ、中でも時間をかけられたのがヘアピンカーブの適地です。適地である「タナ地形」を見つけることが「壊れない道づくり」のポイントであり工事費を安くすることだといわれます。

▲路線計画図に基づき、現地踏査をされる榎本慎一氏（携帯器械により路線勾配を測定されています。）

▲洗い越し（路面に丸太組を行い、その間に礫を敷き詰める）

■開設工事

本格的な開設工事は生産森林組合員が行なうことから、榎本氏には、講習会終了後4日間内で路線位置と開設工事のポイント、丸太組工法、路面処理等、壊れないための作業を施工しながら指導をしていただきました。

今後、地元生産森林組合長である小林温氏及びご子息の2人が開設工事を行っていきますので、宍粟市方面にご用のある方は、一度現場をのぞいてください。

なお、本作業道は常時使用し、幅員2.5mの作業道です。

▲土留工（支障木を使用した丸太組工法）

▲仕上がった（一部分）壊れない作業道

冊子「ひょうごの森林・林業」の発刊

（社）兵庫県治山林道協会では、県林務課、豊かな森づくり課、治山課のご協力を得て、平成19年10月に「ひょうごの森林・林業」を発刊いたしました。

本冊子は、平成17年に兵庫県で開催された第29回全国育樹祭に併せ作成された同名の冊子をベースに、写真、統計データ等の更新と内容の充実化を図りました。

この冊子により、多くの県民の方々に森林・林業について知っていただくとともに、県民緑税の活用により進めている「災害に強い森づくり」や人と環境にやさしい県産木材の利用拡大など多彩な取組へのご理解とご支援を賜るために発刊いたしました。

また、巻末には、治山林道協会の概要を掲載し当協会のPRをさせていただきました。

なお、本冊子については、県庁の上記3課と各農林水産事務所等に配布させて頂いておりますが、森林・林業のPRなどにご活用される場合は、当協会あてご連絡ください。

「県民緑税」を活用した里山防災林整備の紹介
人家裏や生活道路沿いの高木伐採について

兵庫県農林水産部農林水産局治山課

1．はじめに

兵庫県では、豊かな「緑」を次の世代に引き継いでいくため、県民共通の財産である「緑」の保全・再生を社会全体で支え、県民総参加で取り組む仕組みとして、平成18年度から「県民緑税」（県民税均等割の超過課税）を導入し、里山防災林整備などの「災害に強い森づくり」を進めています。

2．里山防災林整備について

里山防災林整備は、集落裏山などの山地防災機能を高めるために、左記の整備を実施しています。

（1）森林整備

①平成16年度の台風23号による風倒木が、人家に大きな被害を与えたため、人家裏等の倒木の危険性のある高木をあらかじめ伐採し、風倒木被害を防止します。

②手入れされることなく、樹木やツルが生い茂った里山林のヒサカキやソヨゴなどを伐ることで、林床の光環境を改善し、下草を繁茂させ、里山林の保水能力を高めます。

（2）簡易防災施設の設置

①斜面に木柵を設置して、台風などの豪雨時に表層土壌の流出を防止します。

②荒廃した渓流に床固工や水路工を設置し、安全に水を導くことで土砂流出を防止します。

③斜面にある不安定な浮き石、転石に、簡易な伏工（網）を施工し安定させることで、人家等への落石を防止します。

（3）管理歩道の整備

整備後の里山林の維持管理のため、また、梅雨や台風前の防災パトロールに使用します。

3．新温泉町三尾地区の整備について

（1）三尾地区について

新温泉町の最北部に位置する三尾地区は、日本海に面し、湾と岬が入り組む変化に富んだ海岸線に広がる漁村です。

集落内には、国道178号線から分岐した県道三尾浜坂線が通っており、その道路沿いの急峻な山際に住宅67戸が建ち並んでいます。海岸に接する森林は、シイ、タブなどの常緑広葉樹が中心で、30度以上の急峻な斜面には、樹高が20m近い高木も見られます。

（2）整備内容について

森林整備については、人家裏等の高木伐採、スギ林の間伐と間伐木を利用した土留工、放置竹林の整備を行います。簡易防災施設は、斜面が急峻で土砂流出の危険性がある箇所に木柵を設置します。管理歩道は、三尾港の右側の尾根部に、森林の維持管理と防災パトロールを目的に設置します。

（3）高木伐採について

地元説明会において、住民から、台風などの暴風時に、人家への倒木を心配する声が多かったことから、基本計画調査では、人家裏や生活道路沿いの高木について、1本ずつ倒木の危険性を精査しました。その結果、約90本の高木に倒木の危険性があることが判明しました。

高木を伐採する場所は、急峻な地形で作業範囲が狭いため、写真のように大型クレーンで木を吊り上げながら、少しずつ上部から伐採しました。

図-1 新温泉町三尾地区の位置

図-2 高木伐採の位置

写真-1 ふれあいセンター裏山の高木伐採

写真-2 県道三尾浜坂線沿いの高木伐採

平成20年度 農林水産予算概算決定の概要（平成19年12月　農林水産省）

Ⅰ．総　　括　　表

区　　分	19年度予算額（億円）	20年度概算決定額（億円）	対前年度比（%）
農林水産予算総額	26,927	26,370	97.9
1　公共事業費	11,397	11,074	97.2
一般公共事業費	11,205	10,882	97.1
災害復旧等事業費	192	193	100.1
2　非公共事業費	15,530	15,296	98.5
一般事業費	6,975	6,714	96.3
食料安定供給関係費	8,555	8,582	100.3

（注）　1．計数整理の結果、異動を生じることがある。
　　2．計数は、四捨五入のため、端数において合計とは一致しないものがある。

Ⅱ．公共事業費一覧

事　　項	19年度予算額（百万円）	20年度概算決定額（百万円）	対前年度比（%）
農業農村整備	674,656	667,736	99.0
林野公共	282,368	267,885	94.9
治　　山	112,012	105,250	94.0
森林整備	170,356	162,635	95.5
水産基盤整備	144,148	133,937	92.9
海　　岸	19,338	18,635	96.4
一般公共事業費　計	1,120,510	1,088,193	97.1
災害復旧等	19,225	19,250	100.1
公共事業費　計	1,139,735	1,107,443	97.2

（注）　1．上記のほか、地域再生基盤強化交付金措置額を内閣府に計上。
　　2．国営土地改良事業特別会計の一般会計化に伴い増加する経費を含む。

平成20年度 林野庁一般会計予算概算決定額総括表（平成19年12月24日）

（単位：百万円）

	事　　項	平成19年度予算額	平成20年度概算決定額	対前年度比(%)	備　　考	
公共事業	治山事業	112,012	105,250	94.0	・治山施設機能強化事業（新規）	1,400
	森林整備事業	170,356	162,635	95.5	・美しい森林づくり基盤整備交付金（新規）	1,000
	一般公共事業計	**282,368**	**267,885**	**94.9**		
	災害復旧等事業	9,974	9,974	100.0		
	公共事業計	**292,342**	**277,859**	**95.0**		
非公共事業	(項)林野庁共通費	5,449	5,304	97.3		
	(項)林野庁施設費	66	73	110.9		
	(項)森林整備・保全費	11,515	16,547	143.7	・花粉の少ない森林づくり対策事業（新規） ・高齢級森林整備促進特別対策事業（新規） ・「美しい森林」共同整備特別対策事業（新規） ・山村再生総合対策事業（新規） ・美しい森林づくり活動推進事業（新規）	2,286 1,000 700 300 252

事　項		平成19年度予算額	平成20年度概算決定額	対前年度比(%)	備　考
非公共事業	(項)独立行政法人農林漁業信用基金出資	0	500	－	
	(項)森林整備・保全費国有林野事業特別会計へ繰入	31,888	31,279	98.1	
	(項)借入金利子財源国有林野事業特別会計へ繰入	21,925	20,845	95.1	
	(項)林業・木材産業等振興対策費	11,188	12,877	115.1	・森林資源活用型ニュービジネス創造対策事業（新規）　1,200 ・木質資源利用ニュービジネス創出事業（新規）　573 ・がんばれ！地域林業サポート事業（新規）　100 ・地域材生産・物流効率化支援事業（新規）　95
	(項)森林整備・林業等振興対策費	9,756	9,692	99.3	・森林・林業・木材産業づくり交付金 （森林づくり交付金と強い林業･木材産業づくり交付金を一体化）
	(項)独立行政法人森林総合研究所運営費	10,317	10,180	98.7	
	(項)独立行政法人森林総合研究所施設整備費	256	287	112.0	
	非公共事業計	**102,359**	**107,582**	**105.1**	
総　計		**394,701**	**385,441**	**97.7**	

うち重点施策推進要望

項　目		決定額（百万円）
地域活性化	地域材生産・物流拠点整備支援対策	895
	山村再生総合対策事業	300
	里山エリア再生交付金（公共）	2,000
環境立国	森林環境保全整備事業（公共）	7,340
生活の安全･安心	治山事業（復旧治山・予防治山）（公共）	3,072
計		13,607

（注）1．上記のほか、地域再生基盤強化交付金措置額を内閣府に計上。
　　2．計数は四捨五入により、端数において合計と一致しないものがある。

協会だより

編集後記

新年あけましておめでとうございます。

平成20年という節目の年を迎え、みんなが安全･安心で暮らせ、明るい未来への期待が持てる年となって欲しいものです。

特に、今年は、日本で7月に先進国主要8か国首脳会議である「洞爺湖サミット」が開催されますが、サミットに先駆け5月24日から26日の3日間、兵庫県(神戸市)で環境大臣サミットが開催されることとなっています。地球温暖化が進行し、異常気象や生態系の破壊など国際的な環境問題が深刻化しているなか、日本の主導性の元に、環境への負荷が少ない循環型社会構築への指針と合意を示して欲しいものです。

県では、平成18年度から「県民緑税」を導入し森林の整備や都市の緑化を進めていますが、このような地方税における森林環境税等の動きは年々拡大し広まってきております。

しかし、一方、環境省が中心となって進めている「環境税」については、産業界への影響等をも有り、実現が難しい状況に有ります。当面、日本で唯一の資源といってよい森林を持続的に整備･保全していくための「森林に特化した環境税」で有れば、より国民の理解が得やすいのではと思いますが、如何でしょうか?

県では、阪神淡路大震災からの復興や地方交付税の削減など大変厳しい財政状況にあり、今年を再生元年として行財政改革を進められることとなっていますが、当協会を支えて頂いている市町におかれましても、広域合併と併せ行われた三位一体改革等により極めて厳しい状況に有ります。また、当協会など公益法人は、民法法人としてこれまで存立してきましたが、公益法人改革にともない平成18年6月2日に交付された公益法人制度等関連三法が、いよいよ本年12月から施行されますが、当面は「特例民法法人」として存続し、法施行後5年以内に、新法に基づく団体(一般社団、公益社団等)への移行手続きが必要となってきます。

これらの情勢を踏まえ、会員の皆様のご意見･ご指導と関係団体との協議等を経ながら、今後の協会のあり方等について検討していきたいと考えていますのでよろしくお願いします。

末筆ですが、「やまなみ23号」の発刊にあたり、ご協力を頂きました皆様に心から厚くお礼申し上げます。

また、次回「やまなみ24号」は6月の発刊を予定しておりますので、森林･林業等に関わる地域の話題をご提供頂きますとともに、記事についてのご要望やご意見をお願いいたします。

やまなみ　第23号　平成20年１月７日発行　社団法人兵庫県治山林道協会
神戸市中央区北長狭通5丁目5－18　TEL(078)371－0210　FAX(078)371－6632
編集責任者　中 野 一 郎　印刷所　創文社

「やまなみ」には森(もり)林にやさしい再生紙を使用しています。